

わだ い浪切サロンとは、2月と8月を除く毎月第3水曜日の夜7時から開催するmini和歌山大学で、和歌山大学と岸和田市の連携事業です。和歌山大学の教員等が、地域のみならず身近な研究テーマや旬のトピックスをわかりやすくお話しします。参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

田楽躍りと

泉州大津村の田楽法師

話題提供者

吉村 旭輝

和歌山大学紀伊半島価値共創基幹
(紀州経済史文化史研究所)
准教授

経歴

帝塚山大学大学院人文科学研究科博士前期課程修了。千葉大学大学院社会文化科学研究科博士課程中退。2009年から和歌山大学紀州経済史文化史研究所学芸員(研究支援員)、同特任准教授を歴任。2021年から同大学紀伊半島価値共創基幹准教授に着任。

芸能史分野では田楽躍りを中心とした中世芸能の経済的基盤となる寺社と芸能者の近世での交渉史を研究している。また、民俗芸能研究の分野では本人も復興に2010年の復興に参画した和歌祭御船歌の継承や「地元」泉州大津市のだんじり祭りの役員も務めていることから、全国各地で行なわれている祭り/祭礼での民俗芸能の「復興」や「継承」の実践的研究にも着手している。

俚謡「大阪通いに大津は恐い大津田楽二本差し」

江戸時代、紀州街道を大坂にむけて上る際、泉州大津村(現泉大津市)には帯刀をした二本差しの田楽法師がいるから恐いという俚謡である。田楽法師とは、田楽躍りを踊る専門の芸能者である。田楽は中世、都を中心に大流行した芸能であり、日本の中世を代表する芸能である。しかし、権力者が好んだ芸能であったため、その盛衰も激しく江戸時代には衰退の一途をたどっていた。その担い手である田楽法師がなぜ泉州大津村に住み着いたのかを読み解く。

申し込み必要 / 参加費無料

開催日時

2022年4月20日(水) 19:00~20:30

開催方法

ハイブリッド(会場およびオンライン)

※会場にお越しの方は、マスク着用・手指消毒等感染対策にご協力お願い致します。
※感染状況によりオンライン開催のみに切り替える場合があります。
※何らかの支援または情報保障を希望される方は、2022年4月6日(水)までにご相談ください。

会場

南海浪切ホール1階 多目的ホール(岸和田市港緑町 1-1)

お問い合わせ先

和歌山大学岸和田サテライト

岸和田市港緑町 1-1 南海浪切ホール2F

TEL&FAX : 072-433-0875 (火曜~土曜 10時~17時)

E-mail : kishiwadastaff@ml.wakayama-u.ac.jp

<https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/kishiwada/>

定員

会場: 15人程度 / オンライン: 80人程度

※いずれも先着順。定員に達し次第、ホームページ等でお知らせ致します。

申込方法

下記のQRコードからお申し込みください。

お電話(072-433-0875)でのお申し込みも可能です。

※お電話の場合は、以下の内容をお電話口でお知らせください。

①氏名(必須)、②電話番号(必須)、③メール、年齢、お住まい

※お電話の受付時間は、火曜~土曜 10時~17時です。

お申し込みはこちらから ▶

※会場参加が定員に達し次第、オンライン参加のみの受付となります。

※個人情報については、本事業の目的以外には使用いたしません



申込締切

2022年4月19日(火) 17:00